

対馬で過ごした子どもの頃の私は、休みの日になると祖父母の家に行き、港のそばで釣りをして過ごすことが多い子でした。ボラやアジがよく釣れ、食べるためというよりも「引き上げるときの手応え」が楽しくて仕方がなかったんです。父は生け簀を二つ持っていて、クエ用とそれ以外に分けていましたが、当時はクエが高級魚だという意識もなく、郷土料理の「いりやき」の季節になると何匹か生け簀に入れておくのが、我が家では当たり前の年中行事のようでした。イカもよく獲れ、干物が食卓に並ぶのも日常で、海とともにある暮らしが自然と身につけていました。

そんな対馬を離れて横浜に移ったのは12歳のとき。初めて乗った満員電車の迫りに圧倒され、過呼吸になるほどでした。さらに、塾に通い中学受験を目指す同級生の多さにも驚きました。対馬では習い事をする子は少なく、

自分も将棋を「習っている」というより、父が姉に教えるのを横で見て興味を持ったのが始まりです。3歳ごろに指し始め、小3になる頃にはほとんど負けなくなっていました。父から「勉強と将棋、どっちを頑張りたい？」と聞かれ、「将棋」と答えたことで、横浜に拠点を移し、プロを目指すことになりました。家族や親戚の支えが大きかったのは言うまでもなく、特にNHK杯が放送されると島からの連絡が一気に増え、離れていても見守ってくれていることを実感します。

対馬で好きだった場所はいくつかありますが、「鮎もどし自然公園」は特に思い出深い場所です。浅く広がる川と岩畳の風景は夏の定番で、お盆の時期には親戚みんなで行って、アブを払いながら岩場を歩き、水に足をつけて涼んだものです。空港近くの「対馬グリーンパーク」もよく遊びに行った場所で、広い芝生やアスレチックがあっ

て、週末には友達と走り回っていました。

対馬は“山が多い島”でもあります。移動は大変で、車で走ると対向車より鹿と多くすれ違うほどです。道路事情も決して良いとは言えず、大雨が降れば通行止めになる場所もあります。こうした地形の厳しさは、暮らしやすさや産業にも影響しています。今は地域ごとに子どもが減り、小学校全校児童が数十人という地域も珍しくありません。

産業としても厳しい面があり、観光は期待されていますが、東京から直行便がなくアクセスが悪く、観光地としての難しさを感じます。ただ最近では、ゲームの「Ghost of Tsushima」やテレビ番組の影響で注目され、若い世代が訪れるきっかけにはなっていると思います。

対馬の食文化で特に心に残っているのは、日本ミツバチの蜂蜜です。量が取れない代わりに味が濃く、香りも

豊かで、今でも親戚に頼んで取り寄せています。祖母が白玉団子に蜂蜜をかけてくれた味は忘れられません。また、椎茸や芋など、山の恵みも多く、子どもの頃当たり前だと思っていた味が、大人になるとどれだけ贅沢だったかに気づきます。

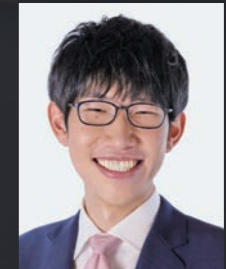
島を離れて20年以上経ちますが、お盆や正月には欠かさず帰省しています。街を歩けば「おかえり」と声をかけられる、あの距離の近さは都会にはありません。自然の中でのびのび過ごした子ども時代の環境は、精神の土台にもなりました。誘惑の少ない島で、将棋に集中できたことは、今の自分につながっていると思います。

対馬の魅力を一言で表すなら、「自然の豊かさ」と、人のあたたかさ。派手さはないけれど、確かな力を秘めた島です。離れて暮らす今こそ、その価値を強く感じています。

写真提供：佐治雅之

特集
対馬が描く、国境の
物語と未来への航路

MESSAGE 私の原点、対馬の記憶



佐々木 大地
SASAKI Daichi

プロフィール
1995年5月30日生まれ（長崎県対馬市出身）
2008年9月 深浦康市九段門下
2016年4月 四段昇級
2017年2月 規定によりフリークラスからC級2組へ昇級
2022年2月 六段、4月七段に昇級
2023年 第94期ヒューリック杯棋聖戦で初のタイトル挑戦
伊藤園お〜いお茶杯第64期王位戦でもタイトル挑戦を果たす
※タイトル登場2回

通算 503戦 347勝 156敗 勝率 0.690 (2026年2月5日時点)

2018年度第46回「最多勝利賞」受賞
2019年度第47回「最多対局賞」受賞

得意戦法 横歩取り